

実施日：6月9日（1・2校時） ・ 6月23日（3・4校時）	
領 域：教科（外国語科）	
取組名：If the world were a village of 100 people. （世界がもし100人の村だったら）	
対 象：5年生・6年生	実施場所：教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な国や文化の中で生きている人と理解し合おうとする態度を育てる。 ・ 地域、国、性別などによって格差や違いがあることを知り、心に残ったキーワードを選び、英語で発表することができる。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ クイズを考えることによって、教材への関心を高める。 ・ 「世界がもし100人の村だったら」の教材文、写真やイラストを見聞きし、初めて知ったことや考えたことをワークシートに記入し、話し合う。 ・ 「あっていい違い」と「あってはいけない違い」に分類する。 ・ 教材に込められた人々の思いについて考え、焦点化する。 ・ 自分なら、どのようなメッセージを発信するか考え、ワークシートに記入する。 ・ 友だちとの交流を通して、今の自分と向き合い、国際理解について考える。 ・ 授業をふり返り、感想をまとめる。 ・ ワークシートを持ち帰り、保護者への啓発につなげる。 	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携にむけての取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを持ち帰り、家庭で話をする機会をつくる。 ・ 授業の様子を人権だよりに掲載し、啓発につなげる。 	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 5、6年生全ての学級で授業を実践することにより、高学年で共通した取組となるようにする。 ・ 外国語科を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度など、外国語科における「学びに向かう人間性等」の育成につながるよう意識する。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート ・ 感想[別紙②] 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 違いを知って認めることの大切さを感じられる授業になった。 ・ 他国や世界のことを自分事として捉えたり、自分の心にある差別的な考えに気付いたりすることができていた。 	
ク 課題 <p>様々な国や文化の中で生きている人と理解し合う態度を育てることについては、1度の授業だけでは定着は難しいので、外国語科などの教科指導や普段の生活指導で続けていく必要がある。</p>	